

郷土資料館だより

Vol.30. No.1

2007.8.1

ふるさと歴史文学コーナー 「三島を巡って～武田・北条・今川の歴史～」 報告

- 開催期間 平成19年5月17日(木)～平成19年7月24日(火)
- 会場 ふるさと歴史文学コーナー (本町タワービル4階)

甲州と三島は、三嶋大社西側から北に延びる佐野街道(通称甲州街道)を通じて古くから交流がありました。戦国期には、三島を境に領土が隣接していた武田・北条・今川の三氏は、三島を舞台に戦いを繰り広げています。今回は『甲陽軍鑑』や三将会盟のジオラマを展示し、三氏の歴史を中心に、甲州と三島の関係について紹介しました。



現在の千貫樋

この時、今川義元の息子氏真が北条氏の娘をもらうにあたり、むこ引出として、腐朽したままになっていた樋を再建し、伊豆の水を駿河へ引いたといわれています。これが千貫樋です。

三国同盟と千貫樋

天文6年(1537)に今川義元が武田信虎の娘を妻として迎えたことから、武田、北条、今川の関係が険悪となり戦闘が繰り広げられるようになっていました。

そんな中、臨濟寺住職で今川義元の軍師太原崇孚の仲介により武田信玄、今川義元、北条氏康は不可侵を誓い、それぞれの娘をお互いの嫡子に嫁がせ婚姻同盟を成立させました。

武田信玄と「鎧坂」

永禄12年(1569)2月、武田晴信(信玄)が伊豆駿河進攻のため、天道の占いで戦を決心しようとしたといえます(「武田晴信書状」『静岡県史』)。

新幹線三島駅の北側付近にある「鎧坂」の地名伝説によれば、「武田信玄が三島に陣を張っていた際、洪水に遭遇し、武具を流してしまった」といわれています。『北条盛衰記』の永禄12年6月7日の段に、「この洪水は武田軍が三嶋明神(大社)の社殿を打ち壊したり乱暴狼藉を働いたための咎めではないか」と記されています。またこの時、武田家に代々伝わる「八幡大菩薩」の御旗までも波にさらわれてしまい、それを北条方に取り上げられ「信玄一生一代の不覚」と噂されます。

信玄の子「故信上人(俗名:武田信景)」林光寺を開く

信景は、母の志願に応じて弘治3年(1557)、甲斐国山梨郡国坂婦命院岌往上人の榻下において得度し、のち天正2年(1574)、錫を三島に留め念仏説法をしていました。

長篠の戦に敗れた武田の家臣が、武田家の再興を願い、故信上人を尋ねましたが、逆に、上人に浮世の無常を説かれ当地に留まります。この時の人々は故信上人を開山として天正5年3月、一字を創立し、遠州山梨の寺号を移し林光寺としました。

元和8年(1622)5月16日故信上人は寂しましたが、林光寺を創った武田氏の家臣の人々は、そのまま三島に住み着きました。



企画展 「ふるさとの人物」 開催中

●平成19年7月15日(日)～平成19年9月24日(月・祝)

三島市の「ふるさとの人物」として、様々な立場から三島の発展に寄与した人物について取り上げ、それぞれのゆかりの場所に説明板を10基ほど設置してあります。今回の企画展では、滝之本連水(俳人)、五所平之助(映画監督)、平井源太郎(農兵節の宣伝)、世古六太夫(本陣主)、並河五一(漢学者)、吉原守拙・呼我(教育者)、花島兵右衛門・轍吉(実業家)、箕田寿平(俳人)、秋山富南(地誌編さん者)、福井雪水(三島の教育先駆者)について紹介しています。耳慣れない人物がいるかもしれませんが、夏祭りの「農兵節」や三島の映画「わが街三島」、三島の小学校創設など、現在の私たちに大変馴染みのある事柄に関わった方々ばかりです。



林光寺境内説明板



吉原守拙・呼我

ふるさと歴史文学コーナー 「三島ゆかりの作家たち-太宰治・大岡博・小出正吾・五所平之助-」 開催中

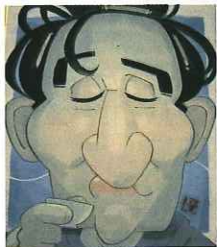
●開催期間 平成19年7月26日(木)～11月20日(火)

●場 所 ふるさと歴史文学コーナー(本町タワービル4階)

太宰治は、『人間失格』や『走れメロス』等の作品でよく知られています。その太宰が、昭和9年の夏、一か月もの間三島に滞在していたことはあまり知られていません。彼は、『老ハイデルベルヒ』の中で「三島は私にとって忘れてならない土地でした。」と書いています。太宰がなぜこのような思いを抱いたのかを展示で紹介します。



太宰治の滞り場所付近



田畑伴和氏(大社町出身)
制作「太宰治」

また、今年で第30号が発刊される『文芸三島』(年一回刊行)を記念し、創刊当時の選者、大岡博氏・小出正吾氏・五所平之助氏の業績を偲び、原稿や書籍を紹介します。



学芸員の1品ということで、郷土資料館3階に新しく展示コーナーを設けました。このコーナーは、各学芸員の専門分野や研究テーマの中から学芸員自身が選んだ資料を紹介するものです。

「茶筴」のひ・み・つ (担当: 渡邊美幸)

茶道で使用する「茶筴」は、河川、湖沼、沿海などの水中に仕掛け魚をとる道具「筴」から思いついたといわれています。筴は関東南部から静岡県地方では、「もじり」とよばれ、現在でも使われています。茶筴とは、茶碗に抹茶と湯を入れ、それを攪拌するために用いる竹製の道具のことです。「筴」は「筴」とも書きます。茶筴には形・素材・流派などによって好みが変わり、約120種類もあります。



展示コーナー



筴(もじり)



茶筴

～特集・収蔵資料から～

三島宿問屋場史料整理を終えて

郷土資料館において近世文書の調査整理に携わる橋本敬之先生からの調査報告です。橋本先生は、伊豆の国市立長岡中学校教諭・伊豆の国市文化財保護審議委員をされています。以下はその調査報告です。

平成17年夏から郷土資料館にある三島宿問屋場史料の整理を実施してきた。『三島市誌』編纂のために利用され、展示資料にも活用されてきたため、史料整理が遅れていたものと思われる。そこで、郷土資料館に提案をして、三島宿の経営がわかる基本的史料でもある問屋場史料の整理を行うこととした。

これまで史料の整理は何回か試みられていたので、さまざまな分類や番号が付され、整理するための史料整理用封筒も何種類か作られているので、統一性に欠く整理に終わっていた。今後、当館の史料整理の基本ができればよいと考え、整理を開始した。整理は『静岡県史』編纂のための分類方法を基本として、三島宿の特殊性を勘案し、分類項目を細分化して整理を行った。分類を行うと史料の性質が一目でわかる便利さがある。しかし、どの分類に属させるか、多岐に亘る内容を含む場合は分類が難しい場合もある。そこで、できるだけ内容を細かく取り、どの分類に属させても分かるような配慮をした。また、問屋場史料は交通関係が中心になるので、今回はG交通関係史料を細分化して分類した。整理の結果、総点数1156点、以下、分類毎には表に示した通りの分類点数となった。これらの中で特筆すべき点、すなわち、三島問屋場史料としての特徴を述べよう。

問屋場史料は細分類した交通関係に特徴があることは、名前からしてわかるが、問屋場は当時三島宿の行政を担う場でもあった。そこで、御用留など幕府や代官からの通知も受け取り、宿場内に知らせる役割も担っていた。そこで、支配関係に分類した史料も多く、58点を数えた。同じく、行政の中心は年貢を集め、納入することであるので、年貢割付状・皆済状の多さも目を引く。特に、三嶋大社の社家村以外に、修復料を得る目的で宮後新田が開発され、その年貢割付・皆済状もあるため、その分も含んでいる。年貢割付状では、当時の災害や三島宿の開発の様子、代官役所の機能を垣間見ることができる。例えば、三島御殿や鷹部屋の開発のようす等もここから見ることもできるし、運上を見ると、水車の設置状況・質屋の設置なども知ることができる。問屋場史料としてGに分類した交通関係の特徴を述べると、1つは朝鮮人通行史料である。近隣の史料も併せて、宿場と周辺地域の機能が展開できると、今までの朝鮮人通行の見方がかわるものと思われる。幸い、日大国際関係学部図書館に丹那川口家文書があり、この朝鮮人関係史料と結び付けると総合的な機能が読み取れるものと思われる。Gkに分類した金融・宿助成の史料に大きな特徴が見られるのであるが、主に宿運営に関わるものである。宿場は一般的に生産の場ではなく、金遣いの場で恒常的に疲弊状態であった。I災害関係史料に示した通り、江戸時代は木造家屋であり、消防施設の不備により、多くの火災が発生した。このことから、宿場復旧のために常に宿運営資金は不足し、さらに元禄から享保にかけて東海道の交通量は飛躍的に伸びていくことにより、宿場運営は苦しくなる。こうした中で、助郷の改訂がなされるが、宿運営資金の不足は恒常的であった。そこで、一番は宿助成で凌ぐことであったが、自己資金の確保も重要な対策であった。これら史料を写真撮影し、目録と共に公開することが今後の郷土資料館の役割となる。公開できるようになったら、是非とも利用していただきたいと願っている。

1. 静岡県史の「近世編」分類法

| 分類 | 内容 | 点数 |
|---------|--------------|-----|
| A 支配関係 | 領主関係・触書、治安等 | 58 |
| B 土地関係 | 検地帳・名寄帳等 | 28 |
| C 貢租関係 | 年貢割付状、皆済状等 | 684 |
| D 村方関係 | 村明細帳、絵図、人別帳等 | 43 |
| E 産業関係 | 入会を含む | 9 |
| F 商業関係 | 借金証文、大福帳等 | 10 |
| G 交通関係 | 宿場史料、助郷等 | 277 |
| H 水利・土木 | 川除普請、用水相論等 | 3 |
| I 災害関係 | 地震、水害、火災、飢饉等 | 35 |
| J 教育・文化 | 俳句、漢詩、寺子屋等 | 3 |
| K 宗教・身分 | 宗門改、寺社関係 | 6 |
| Z その他 | 近代史料を含む | 10 |

2. 交通関係の分類

| 分類 | 点数 |
|----------------|-----|
| Gc 朝鮮人通行 | 14 |
| Gh 本陣 | 2 |
| Gk 金融・宿助成 | 111 |
| Gs 助郷 | 33 |
| Gt 問屋場 | 81 |
| Gz その他、石道・御進発等 | 36 |

平成18年度 郷土資料館事業報告

1 企画展

| テ ー マ | 実 施 日 | 展 示 内 容 | 入館者数 |
|---|--------------------------------|---|---------|
| 富士・沼津・三島三市博物館共同企画展 「米・コメ・こめ ～米に囲まれた暮らし～」 | 6月18日(日) ～8月6日(日) | 「米」の歴史を振り返ると共に、米の加工品、昔の農機具及び年中行事や信仰などを紹介。(ポスター、パンフレット 作成) | 4,351人 |
| 一発掘された日本列島2006地域展— 郷土資料館開館35周年記念企画展 「東駿河・伊豆の古墳と横穴墓」 | 8月15日(火) ～10月9日(月) | 各時代や地域を代表する遺跡や遺跡からの出土品を紹介。(ポスター、チラシ、図録 作成) | 8,260人 |
| 三島市制65周年記念 開館35周年企画展 「三島ゆかりの芸術家たち」 | 11月3日(金) ～平成19年 1月28日(日) | 三島市を代表する芸術家である栗原忠二・野口三四郎などを中心に、館蔵及び三島市の所蔵する作品を紹介。(ポスター、パンフレット 作成) | 11,695人 |
| 「三島と女性 —歴史の中の女性たち—」 | 平成19年 3月18日(日) ～5月27日(日) | 三島の女性たちの歩みを振り返りながら、古代から現代までの女性史について紹介。(ポスター、パンフレット 作成) | 11,439人 |

2 その他展示

| 会 場 | 日 程 | テ ー マ な ど |
|-----------------------------|--------------------|-------------------|
| ふるさと歴史文学コーナー (本町タワービル4階) | 4月27日(木)～8月9日(木) | 三島の街なみ、古きを訪ねて |
| | 8月15日(火)～10月17日(火) | 発掘された日本列島2006地域展 |
| | 10月19日(木)～2月3日(土) | 江戸時代の旅 |
| | 2月8日(木)～5月15日(火) | 古典文学の中の三島(明星大学共催) |
| 三嶋暦師の館 | 展示替 | 三嶋暦、三嶋暦関係資料の展示 |
| 西小学校郷土教室(3階余裕教室) | 展示替(夏季休暇中に実施) | 一部展示替え |

3 講座・教室・講演会

| 講 座 名 | 日 程 | 講 師 | テ ー マ | 参加者数 |
|------------|-----------|-----------|------------------------------------|------|
| 郷土教室(2回) | 8月4日(日) | 高林 保巨氏 | 自分だけのハンカチを作ろう ～染め物体験～ | 34人 |
| | 12月23日(土) | 館職員・楽寿園職員 | レトロな遊び場(餅つき体験・昔の遊び) | 100人 |
| ふるさと講座(4回) | 7月6日(木) | 迫田 信行氏 | な～るほど! 北上歴史探訪 | 16人 |
| | 9月29日(金) | 文化振興課職員 | 平安鎌倉の道を歩こう | 25人 |
| | 11月25日(土) | 関 守敏氏 | 江戸時代の旅 | 35人 |
| | 12月9日(土) | | | 32人 |
| | 3月10日(土) | 勝又 基氏 | 江戸かな文字入門 ～江戸女性の生き方を学ぶ～ | 31人 |
| | 3月24日(土) | | | 26人 |
| 体験セミナー(1回) | 8月20日(土) | 文化振興課職員 | 勾玉作り ～出土した土器や玉に触ってみよう 勾玉を作ろう～ | 18人 |
| 企画展関連講演会 | 3月21日(火) | 平井 和子氏 | 元始女性は太陽であったのだ?! ～パラ女学校と近代女性の歴史～ | 30人 |
| | | 桜井 祥行氏 | | |

ふるさと講座 「江戸かな文字入門～江戸女性の生き方を学ぶ～」 報告

- 第1回 3月10日(土) 13:30～15:00 参加者 31人
- 第2回 3月24日(土) 13:30～15:00 参加者 26人
- 講 師 勝又基氏(明星大学日本文化学部講師)
- 会 場 本町タワービル4階



かな文字は、日本で生まれた独自の文化であり、日本人の美意識の真髄とも言えるものです。勝又氏は、かな文字を読むには字母を意識することがとても大切だとおっしゃっていました。テキストには文化4年刊行の「滝本流女大学」などを使用し、参加者は江戸女性と現代女性の生き方があまりに違うことに驚き、笑い出す場面もありました。しかし、この「女大学」、決して夫から妻へ読むことを強要したものではなく、女性が自ら選んだベストセラーの本なのだそうです。江戸時代の女性は可哀想だった、と一言で済ませてしまうのはとても簡単なことですが、時代を読むには、文化交流と同じ視点で、先ず相手の状況を理解することが必要だと教えていただきました。



企画展 「三島と女性－歴史の中の女性たち－」 報告

- 開催期間 平成19年3月18日(日)～平成19年5月27日(日)
- 入館者数 11,439人 ●資料点数 93点

三島に関連のある女性について、古代から現代までの時代を取り上げて紹介しました。折しもみしま女性史サークルの『三島の女性』刊行と重なり、また当館での女性史に関する展示は初めてということもあり、県内の各市女性史サークルなどに注目していただきました。

展示では三島出土の土偶に始まり、中世では北条政子、近世では『女大学』や離縁状(三行半)、近代では女性の名前が散見する浜松県公選民会選挙投票用紙や平塚らいてうの『青鞵』、現代ではコンビナート反対運動を中心とした婦人連盟の様子や三種の神器(電化製品)などを紹介しました。また「三島の女学校」として、明治期のバラ女学校や三島北高校(三島高等女学校)の歴代制服(復元)を展示しましたが、戦前から戦後にかけての変化に驚かれる方も大勢いらっしゃいました。

今回は通史として展示したため、出品資料も限られ、また女性の生活に関わる民俗的な部分を紹介できなかったのですが、機会がありましたらそれらを踏まえて紹介していきたいと思えます。



三島市出土の土偶



平塚らいてう『青鞵』



三島北高歴代の制服など

企画展関連講演会

三島と女性 「元始女性は太陽であったのだ!?～バラ女学校と近代女性の歴史～」 報告

- 平成19年3月21日(水・祝)
- 講師 平井和子氏(女性史研究者・オーラルヒストリー総合研究会世話人)
桜井祥行氏(伊豆の国市文化財保護審議会委員)
- 会場 本町タワービル4階 ●参加者 30人

企画展「三島と女性－歴史の中の女性たち－」にあわせ、三島市政策企画課男女共同参画係と共催で開催しました。

平井氏は、昭和20年に開講した庶民大学三島教室に女性が多数参加したことや、昭和39年の石油コンビナート反対運動で三島婦人連盟が独立して運動を展開した例を挙げ、「三島には先見の目がある、学習する伝統がある」とおっしゃっていました。



桜井氏からは、明治21年に開校したキリスト教主義の女学校・薔花女学校(バラ女学校)について詳しくお話をいただき、現在の県立三島北高の設立背景には、バラ女学校の実績があったことや、日清戦争の影響などがあったことも教えていただきました。

各々の講演後、講師のお二人による意見交換が活発に行なわれ、男女間の本音トークが飛び交い、講演とはまた違った一面を垣間見ることができました。

参加者からは「もっとお話を聴きたかった」という意見が多数寄せられました。



企画展案内

平成19年度 富士・沼津・三島三市博物館共同企画展「遥かなる東海道～富士・沼津・三島の記録～」

沼津市歴史民俗資料館：平成19年7月7日(土)～9月30日(日)

富士市立博物館：10月6日(土)～12月2日(日)

三島市郷土資料館：12月9日(日)～平成20年2月24日(日)

平成19年度 三島市郷土資料館企画展「楽寿園の名宝」

10月28日(日)～11月30日(金)

こどもの日スペシャル

●平成19年5月5日(土・祝)

●会場 ふるさと歴史文学コーナー(本町タワービル4階)

5月5日、子どもの日に本町プラザでイベントが行われました。郷土資料館では、野口三四郎氏の「三四呂人形」を紹介しました。

和紙で作られた張子は、素朴さゆえの可愛いらしさがあふれる人形



です。三四呂人形の魅力と、その作り方、軽さを少しでも感じていただけるよう風船

に和紙を張って、張子を作ってもらいました。また、あらかじめ用

意しておいた張子にも、シールや折り紙を貼って、人形を作ってもら

楽しんでいました。三四呂人形に負けない、可愛らしい張子人形がたくさん出来上がりました。



寄贈資料紹介

平成19年3月から6月に、次の方々からたくさんのご寄贈のご協力をいただきました。ありがとうございました。(50音順・敬称略)

| | | | | | | | |
|-------|-----|--------------|----|-------|-----|--------------|----|
| 石川キミ子 | 三島市 | ブルマー | 1点 | 田中修三郎 | 三島市 | 書籍 | 2点 |
| 伊東 晴枝 | 三島市 | 字彫り機 | 1点 | | | 俳聖かるた | 1点 |
| | | テイテツ | 1点 | 永田 能 | 三島市 | ラジオ | 1点 |
| | | ハナカン | 1点 | 藤原 健 | 東京都 | 水彩画 | 3点 |
| | | 化粧道具 | 1式 | 三輪 芳秋 | 駿東郡 | 蓑 | 1点 |
| 遠藤 桂子 | 三島市 | 徳倉区資料他 | 1式 | 森 信子 | 三島市 | 袴の見本(作り掛け含む) | 8点 |
| | | かまど | 1点 | 八木 政一 | 三島市 | スキー板 | 1点 |
| | | 粉末消火器 | 1点 | | | | |
| 栗原はるこ | 三島市 | ノート | 2点 | | | | |
| | | 鏝 | 2点 | | | | |
| 佐野 法男 | 三島市 | 三島町震災復興記念寫真帖 | 1点 | | | | |
| 志崎 澄江 | 三島市 | 神風はちまき | 1点 | | | | |
| 瀬川 到 | 三島市 | 書籍 | 3点 | | | | |



ラジオ



かまど

編集後記

初めて資料館だよりの編集を担当しました。そのため、今回は編集後記に面白いことを書く心のゆとりがありませんでした。次回をお楽しみに！(M)

平成19年度郷土資料館職員紹介

館長 水谷盛彦

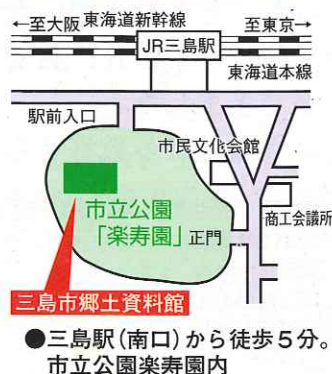
鈴木隆幸、藤岡緑、渡邊美幸、佐藤劭、政木愛子

利用案内

●休館日
毎週月曜日
(祝日の時は翌日)
12月27日～1日2日

●開館時間
午前9時～午後5時
(4/1～10/31)
午前9時～午後4時30分
(11/1～3/31)

●入館無料
(ただし、楽寿園入園の際に有料)



●三島駅(南口)から徒歩5分。
市立公園楽寿園内

郷土資料館だより vol.30 No.1 (第88号)

発行日 平成19年(2007)8月1日
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館
〒411-0036
三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 055-971-8228
FAX 055-981-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL: http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/

発行 三島市教育委員会